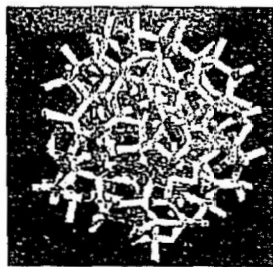


東京大学の枝川圭一准教授らとNIT物性科学基礎研究所は、光を制御できる人工結晶「フォトニック結晶」の新しい構造「写真II」を発見した。これまで必要だった微細加工技術を使わず、材料を混ぜるだけで作れるようになる可能性があるといる。高速動作する光回路や光を使って情報を記録する光メモリなどに応用が期待されている。

フォトニック結晶は光を逃がさず自在に制御できる。超高速コンピュータ

## フォトニック結晶に新構造

東大など発見、高速光回路に応用



て作るのには難しく、実用化への壁となっている。

研究チームは不定形に物質が配列した構造でも、従来と同じように光を制御できることを突き止めた。微細加工の必要なく、条件を整えるだけで自然に構造を形作る「自己組織化」という現象を利用して、効率よく大量生産できるような可能性があるといる。

加工して規則正しく物質が配列した結晶構造を作る。今後、実際に自己組織化

ただ、一羽(羽)は百万分の一以下の間隔で周期的に並んだ立体構造を加工しを進める。